

備前市施策評価シート

(平成17年度事業)

施策名 (小項目)	病院事業	コード	担当課	市立備前病院
		02-02-07	電話	64-3385

備前市総合計画の内容から記載する

施策の体系	大項目(基本目標)	健康でやさしさあふれるまちづくり
	中項目(基本施策)	健やかで生き生きしたまちづくり
① 施策の対象と目的 (誰のために、何のために)	(対象) 地域市民 (目的) 国保直診の役割として、保健・医療・福祉を一体的に提供する	
② 市民ニーズ (反応、問合せ等)	平成18年度実施の市民満足度調査によれば、医療施設に対する回答率は高く、関心度も非常に高い。重要度が高いにもかかわらず満足度が低い傾向がある。高いニーズはあるが、一部を除き、市内の3病院を受診しない傾向にある。	
③ 現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	1. 医療ニーズが量から質へと変化している。 療報酬のマイナス改定や医療費個人負担率の見直しにより、病院経営は厳しさをましている。 2. 診 3. 3病院の連携・機能分化の構築と健全経営を図る。 4. 岡山市内の高度医療提供施設との連携、和気医師会との連携を含んだ地域密着型の医療サービスの提供、医師確保	
④ 施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> 地域密着型の医療サービスの提供 地域連携の強化 3病院機能分化 3病院経営健全化 職員のローテーション 備前病院の建替え検討 病院事業の経営手法の確立 	

⑤ 施策成果指標の検討・設定(基本目標・基本施策・施策意図から検討する)

意図・推進内容のキーワード	考えられる施策成果指標名	順位
経営手法の確立	経営統合率	1
3病院の経営健全化	病院経営の黒字化	2
地域密着型医療サービスの提供	入院・外来患者数、入所・ディサービス者数	3
地域連携の強化	患者紹介率	4

施策に対する 成果指標名	単位	評価年度	目標値		ベンチ マーク	指標の説明
			H17	H23		
1 経営統合率	目標	件	1.0	1	1	3病院を一つの病院事業部に統合。
	実績	件	3.0			
	達成率	%	0.0			
参考1 病院事業の黒字化	目標	件	3.0	3	3	3病院事業のそれぞれの黒字化
	実績	件	2.0			
	達成率	%	66.7			
参考2 入院稼働率	目標	%	85.0			病床85%の稼働率を目指す。
	実績	%	72.5			
	達成率	%	85.3			
参考3 医業収支	目標	千円	180,000			吉永病院は現状維持で備前・日生病院は1000万円の黒字を目指す。
	実績	千円	143,110			
	達成率	%	79.5			

市民意識 調査結果	施策名	調査年度	H18	H19	H20	H21	H22
			医療施設	重要だと思っている市民の割合 %	40.8		
		満足している市民の割合 %	20.8				

⑥ 施策構成事務事業の評価

担当課長評価

施策を構成する事務事業名 ()はその人件費(単位:千円)	事務事業 評価結果 A~E (高~低)	細事業一覧表	直接事業費(単位:千円)		優先 順位 (A~C)
			17年度 事業費		
1 備前病院運営事業 (71,551)	B	病院経営	33,553		B
		庶務			B
2 備前病院診療事業 (714,434)	C	入院	665,520		A
		外来			B
		その他医業			C
3 さつき苑入所運営事業 (144,848)	C	入所運営事業	168,030		B
4 通所リハビリ運営事業 (23,026)	C	通所リハビリ運営事業	7,119		C
5 居宅介護支援運営事業 (3,225)	C	居宅介護支援運営事業	227		C
6 訪問看護事業 (14,880)	C	訪問看護事業	989		C
7 日生病院運営事業 (38,235)	B	病院経営	27,962		B
		庶務			B
日生病院診療事業 (388,790)	C	入院	399,176		A
		外来			B
		その他医業			C
日生病院建設事業 (15,517)	B	日生病院建設事業	1,505,221		-

この施策に要した費用(人件費込、単位:千円)

H17
7,470,229

⑦ ⑥以外で、目標達成に必要な新規事業及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	その説明
保健課	予防医療、健康増進事業。	国民健康保険事業が予防医療重視に方向が向かっているため。
各病院	病院ボランティア活用。	開かれた病院をつくるため市民パワーを必要とする。
各病院	地域連携事業	
各病院	経営健全化、患者サービス向上具体策	待ち時間の短縮、接客改善、患者満足度調査等
備前市	早急な経営手法の確立	病院事業の統一責任者。吉永Hの独法化の早期結論。

⑧ 施策の評価

項目	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い			
	一次評価		二次評価	
	評価	判断理由	評価	判断理由
1 目的達成度	3	吉永病院・日生病院は黒字だが、備前病院は赤字である。	1	病院事業部を早急に実現されたい
2 事業構成の適当性	1	合併の経過もあり、速やかな経営統合の必要がある。	3	経営統合関連の事務事業も必要ではないか
3 施策の有効性	3	今後は保健事業の重視に向けた施策が必要となる。	3	本来有効性の高い施策であるが、今後、経営統合によりさらに上げる余地はある
今後の展開・協働の可能性・事業の見直し等の担当への指示		保健事業との連携、患者紹介率の上昇を目指した地域密着型の医療の推進が必要となる。各病院ともさらなる経営健全化を目指して患者サービスの向上の具体策を講じなければならない。老朽化した備前病院を建替え患者アメニティーを向上させ、市外に流れる患者獲得を検討すべきである。		経営統合を軸とした病院事業全般の統合を目指す(医療サービスも含めて同水準で提供することを目指す)統合できないのなら、民営化の手段も検討すべきである
担当部長コメント		平成18年4月の診療報酬マイナス改定、国民医療費防止策、市の財政状況悪化による当然病院に繰り出すべき資金の圧縮等により公立病院の経営は厳しい。市民の医療に対するニーズが高い割りに病院経営が赤字体質であるのは患者満足度を充足していないためである。3病院の経営を早期に統合し、医療レベルの平準化・経営の合理化等を行い、民間病院に不足した市民病院にしか出来ない医療サービスを向上させ、市民満足度の向上を図るべきである。		

